

宝塚市 連携と協働による災害時要援護者支援制度促進事業

平成 7 (1995)年 阪神淡路大震災

平成 18 (2006)年 宝塚市災害時要援護者支援策検討委員会設置

平成 27 (2015)年 宝塚市災害時要援護者支援事業開始

名簿提供、避難支援組織による訪問や支援カードの作成、支援者のマッチングなど

令和 2 (2020)年 【担当者入庁1年目】 事業担当

名簿作成・提供など事業事務、多様な地域の会議への参加、出前講座など

自助と共助の制度なのに皆知らない、誤解も多い
誰かが何とかしてくれると思っており自助が機能しない
高齢化・担い手不足・関係の希薄化で共助が機能しない
支援カードの地域支援者欄にほぼ名前が書かれていない

頼まなくても
助けてくれる...頼んでも誰も
助けてくれない...

令和 3 (2021)年 【担当者入庁2年目】 個別避難計画作成

「阪神淡路大震災の時は、自然と助け合いが生まれていた」
課で取り組んでいる「お互いさまのまちづくり」ヒント

阪神淡路大震災



平成7年



僕は普段、不在がちで
実は心配だった。
母のためにたくさんの人が
集まって考えてくれて
驚いている。
ありがとうございます。

要援護者の息子

住んでいるマンションは
避難支援組織ではなかったが
今回をきっかけに
マンションに働きかけてみた。
助け合う仕組みを独自で
作ろうということになった。

要援護者の母

一人でも
できることが
ある！直接は一人も
助けられない
かもしれない

宝塚市 連携と協働による災害時要援護者支援制度促進事業



支援者欄が埋まらない / 一部の人だけに大きな負担 / 地域の脆弱化

限られた資源 人、時間：担当者1名 費用：モデル事業分

※ 人口：約23万人 対象者：約6600人 同意者：約2200人 (R3年度)

計画が出来れば良いのではない、助かることを目的として何ができるか？

災害時に誰がどんな状況か予測できない / 誰もが要援護者、支援者になりうる

災害時の**臨機応変な対応**を可能とする自助・共助力が必要
要援護者、支援者、関係者だけのための個別避難計画作成にしない

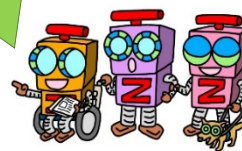
助け合いのできる地域づくり + 地域の防災リテラシーの向上

限られた資源でできること

周知啓発で全体のレベルを上げる

人と人との「**つながり**」を大切にする

顔の見える
関係づくり

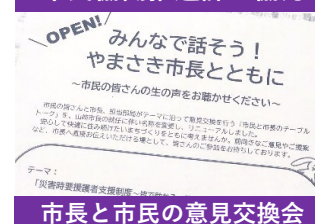


多くの人の**協力(連携・協働)**により成果に繋がった

総合防災課の協力



市民協働推進課の協力



市長と市民の意見交換会

他市町村とのつながり



情報交換や担当者会議

モデル事業



計画作成会議

勉強会

啓発チラシ

その他

京都府意見交換会参加、大学生への講座
関係団体との情報交換 など

作成会議による作成

数がこなせない

他の人、地域への影響を考える必要がある
力のある地域でも根回し等十分な準備が必要
それぞれ多忙のため、日程調整が困難

支援者がつけられない

名前や連絡先を書くことが負担
どの組織、団体も高齢化と担い手不足が深刻
発災時の地域活動者/団体の役割が多すぎる

無理に進められない

敬遠されてしまう
**それぞれの関係性や、
既にできている信頼関係を失う**

自助

想定通りに
被災するか？状況は
すぐ変わる高齢化
関係の希薄化
多様化本人/家族/専門職による
個別避難計画作成

- ・既存の支援カードを個別避難計画へ
- ・計画をデータ化し実態の把握（システム導入）

作成会議も必要！

助け合いのできる地域づくり
地域の防災リテラシーの向上 に非常に有効

共助



例え震度2でも、支援が必要な状態になっているかもしれない。

そんなことも皆で考える個別避難計画であればもっと良いものが
できると思う。今後もぜひ皆で一緒に考えていきましょう。



今後のテーマ：「×DX」 デジタル技術の活用で、現場での課題を解決する仕組みを探る、推進する

（R4:支援カードのアップグレード、防災放送アプリ活用 R5:システム導入 R6:実状を反映したデータ利用 ほか）

1. 庁内での周知

- ・ 庁内でコミュニケーションを取り
どんな職員がどこにいるか知る
- ・ 誰が何をしようとしているか
知っておいてもらう

2. 情報収集

- ・ 知っていそうな人に情報をもらう
ハザード / 地域資源 / 当事者
専門職 / 関係者 / 特技のある人等

3. 対象の決定

- ・ 作成の目的を明確化する
- ・ どの人（地域）を対象にするか
決める



6. 調整

- ・ 出た意見や希望に添えるよう
調整を進める
- ・ 調整に必要な情報収集も行う

5. 参加依頼

- ・ 相談し、意見や希望を聞きながら
依頼する
- ・ 無理強いをしない

4. 依頼ルートへの決定

- ・ 関係者のうち、
まず誰が必須なのか決める
- ・ どの順、誰から参加依頼するか
決める

7. 準備

- ・ シナリオ / 場所 / 物 / 人等用意
- ・ 必要であればリハーサルをする
- ・ 万が一の際の代替案も考えておく

計画様式も
(簡単なもの)

8. 実施

- ・ 進行役をし、前に出すぎない
- ・ 前向きな場になるよう注力する
- ・ 一部でも良いので訓練をする

9. 次の実施に向けて

- ・ 振り返りをし、次に生かす
- ・ 1件ずつ別物と考えて取組む
- ・ つながり、信頼関係を大切に！

